

花の拠点整備事業について

1. 使用料を徴収する公園施設等について（素案）

花の拠点内各施設において使用料を徴収する公園施設等については、第2回定例会に係る条例案の提案を予定しているところですが、このたび、使用料の素案を作成したのでご報告いたします。

区分	単位	使用料（素案）
電気自動車等用急速充電設備	1回当たり30分まで	500円程度（備考2）
有料公園区域（備考3）	1人1回	100円～500円程度（中学生以下の者は無料） ※市民向けに割安な定期入場券の設定を検討
センターハウス（子どもの遊び場）	1人1回（2時間以内） ※2時間/回のクールを設定	300円～500円程度 ※平日のみ1日券の設定を検討 ※市民向けに割安な定期入場券の設定を検討
RVパーク（備考4）	駐車場1台分当たり1泊	2,000円～3,000円程度
物品等の販売（備考5）	1日1店舗当たり ※1店舗当たりの占用面積上限を設定	平日：2,500円～3,000円程度 休日：5,000円～6,000円程度 いずれも市外事業者は2倍の額とする。

備考

- 1 使用料の額の設定に当たっては、いずれも近隣類似施設の設定金額を参考とした。
- 2 電気自動車等用急速充電設備は現在と同額を基準に検討する。
- 3 有料公園区域は、ガーデンエリア内で別途定める区域とし、有料部分を設定しないこともある。
- 4 RVパークの使用料には、専用トイレ、電源設備の使用料、ごみ処分手数料を含む。ただし、洗濯室の光熱水費などの実費については別途徴収する。
- 5 物品等の販売は、ガーデンエリア内で市が指定する区域内での露店、キッチンカーの出店を想定。国道側駐車場は不可。
- 6 上記の表に定めるもののほか、公園施設（道と川の駅、農畜産物直売所、自動販売機など）の設置者又は管理者から都市公園条例に基づく公園使用料を徴収する（現在も同様）。

2. 花の拠点整備事業の事業費について

※別紙参照

(P2) ○花の拠点整備事業費

(P3) ○花の拠点整備事業費 年度別内訳

花の拠点整備事業費

(単位:千円) R2年2月末

項 目	全体事業費 (H31年3月)	全体事業費 (R2年2月)	当初との比較		
花の拠点整備費	農畜産物直売所新設費	291,000	342,401	51,401	駐車場44,088増
	センターハウス建設費	270,000	285,658	15,658	子供の遊び場24,200増
	戸建店舗建設費	0	0	0	
	小 計	561,000	628,059	67,059	
	造成工事	70,000	70,000	0	
	給排水電気設備	50,000	50,000	0	
	修景工事費	360,000	428,219	68,219	
	戸建店舗周り建設費			0	
	駐車場整備	156,000	156,000	0	
	小 計	636,000	704,219	68,219	
	計	1,197,000	1,332,278	135,278	
	用地費	438,000	438,484	484	
	設計・調査費	84,000	58,719	-25,281	
	小 計	522,000	497,203	-24,797	
	合 計	1,719,000	1,829,481	110,481	
財源内訳	民生安定	328,000	335,248	7,248	
	調整交付金	5,000	0	-5,000	
	地方創生	224,000	185,107	-38,893	
	観光庁補助	10,000	0	-10,000	
	環境省補助	83,000	74,954	-8,046	
	繰入金		7,878	7,878	
	特定財源等 小 計	650,000	603,187	-46,813	
	起債	571,000	680,037	109,037	
	内訳①(交付税対象)	291,000	215,140	-75,860	
	内訳②(一般)	280,000	464,897	184,897	
	基金	373,000	424,851	51,851	
	一財	125,000	121,406	-3,594	
一般財源等 小 計	1,069,000	1,226,294	157,294		

関連事業	道と川の駅改修・外構工事	120,000	227,480	107,480	
	松園線交差点改良	91,000	129,261	38,261	
	緊急貯水槽整備	114,000	102,089	-11,911	
	計	325,000	458,830	133,830	

全国都市緑化フェアについて

1. 開催招致表明以降の取組について

1 全国都市緑化北海道フェア基本構想検討委員会について

(1) 開催目的

全国都市緑化フェア実施要領（平成23年5月26日付国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室通知）第4条第1項の規定に基づき、基本構想の策定に関してご意見をいただくことを目的としています。

(2) 委員等構成

・委員

学識経験者、経済団体関係者、緑化・花き関係者、教育関係者 14人

・オブザーバー

北海道開発局

・事務局

北海道、公益財団法人都市緑化機構、恵庭市

(3) 基本構想

全国都市緑化フェア開催要綱（昭和60年1月30日建設省緑対発第1号）第5条の規定に基づき、フェアを開催しようとする者は、基本構想を策定し、フェアを開催しようとする時期の2年前までに国土交通大臣に協議し、その同意を得る必要があります。本構想においては、フェアの会場、事業、財政、実行組織等に関する基本的な構想を定めるものとします。

(4) 開催状況

① 第1回：令和元年12月17日開催

(議題)

基本構想検討委員会について

全国都市緑化フェアの概要について

全国都市緑化北海道フェアのイメージについて

今後のスケジュールについて

② 第2回：令和2年2月18日開催

(議題)

前回会議の振り返り

第1回全国都市緑化北海道フェア連絡協議会の連絡

緑化フェアのイメージについて

メイン会場の現状と今後の整備スケジュールについて

(5) 今後の予定

①第3回委員会を4月頃に開催し、開催意義、テーマ等について試案を提案

②第4回委員会を6月頃に開催し、基本構想案をとりまとめ

2 全国都市緑化北海道フェア連絡協議会について

(1) 開催目的

全国都市緑化北海道フェアの開催に向け、国土交通省、北海道、恵庭市及び近郊の市町との連携を図るために開催するもので、どういった形であればご賛同いただけるか、検討していただくためにご参集をお願いしたものです。例えば、以下のような項目について各市町で検討していただくこととしています。

- ① 各市町内に所在する施設においてフェアと連携したイベントを開催していただく。
- ② メイン会場に設置するイベントブースにおいてイベントを主催していただく。
- ③ 各市町で通常開催するイベントに「フェア記念事業」などの冠をつけていただく。
- ④ メイン会場内に設置予定のブースに出店いただき、各市町についてPRしていただく。

(2) 開催状況

・第1回：令和2年1月17日開催

① 出席者

・オブザーバー

北海道開発局

・市町

札幌市、岩見沢市、苫小牧市、江別市、千歳市、北広島市、南幌町、由仁町、長沼町、
白老町、厚真町、安平町、むかわ町

・事務局

北海道、恵庭市

② 議題

連絡協議会について

全国都市緑化フェアの概要について

全国都市緑化北海道フェアのイメージについて

今後のスケジュール

2. 全国都市緑化北海道フェア骨子案について

現時点における恵庭市の考え方にお示しするものです。

【3ページ以降参照】

1 開催の意義

- **北海道の豊かな自然と花緑の魅力の発信と更なる発展にむけたガーデン運動の推進**
 ・北海道の自然や花緑の資源とこれに関わる官民の取組みは、観光やまちづくりなど地域活性化の重要なコンテンツであり、地域社会においては暮らしに潤いを与え生活の質を高めることから、フェア開催を契機に更なる発展を目指します。
- **花と緑豊かなライフスタイル、生活文化の創造**
 ・盛んな花や緑のまちづくりに係る市民活動の実績を広く全国に発信し、次世代を担う子供達が住み続けたい、新たな人々が移り住みたい、心を豊かな生活文化の創造を図る。
 → **北海道の豊かな生活スタイルの発信**
- **花と緑の観光・地域産業の促進**
 ・花や緑、ガーデン巡りを目的に訪れる人々が多い北海道で、観光資源としてツーリズムの定着を進めるとともに、農、食、健康、景観、環境、通信などの産業と連携した地域振興の促進を図る。
 → **観光人口、交流人口の増加～道内に拡がる観光振興**
- **花と緑の新たな拠点における「観光まちづくり」の推進**
 ・新たに整備が進められている「花の拠点」において、市民活動や民間活力との協働による花緑観光を確立するとともに、「花のまち」としてブランドの全国的な発信の契機とする。
 → **花と緑のブランドの確立と発信**

2 開催テーマ

- (1)統一開催テーマ 『緑ゆたかなまちづくり』
 ～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～
- (2)北海道フェアのテーマ 「新たな公園のお披露目」「市民連携による花のまちづくり」「ガーデン連携による地域活性化」等のアイデアを持ち寄り、基本構想検討委員会の議論を踏まえ、基本計画で定める

3 基本方針

開催意義、開催テーマ等について基本構想検討委員会の意見を踏まえ、第3回会議で試案を提案【参考】

<p>第37回全国都市緑化フェアひろしまフェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広島を花と緑でつないでいくフェア <ul style="list-style-type: none"> ・花や緑等の地域資源の活用 ・花や緑等を通じた回遊性の向上 ● 広島を力を結集してみんなでつくりあげるフェア <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの担い手の育成 ● 平和と広島を世界に発信するフェア <ul style="list-style-type: none"> ・国内外への魅力の発信 ・平和を象徴する花と緑の祭典 	<p>第38回全国都市緑化フェアくまもとフェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな自然環境を活かした“熊本らしさ”あふれる会場展開 ● みどりの大切さを次世代に継承 ● 地域づくりを進める多様な担い手の育成 ● 地域産業の振興・地域経済の活性化 ● 力強い復興と新たな熊本の魅力・元気な熊本を発信
--	--

4 開催の基本的事項

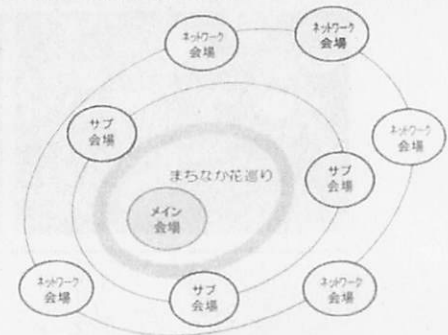
- 主催者等 主催者 北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構
 共催者 国土交通省北海道開発局
 提唱 国土交通省
- 開催時期 令和4年7月から8月頃 (期間中、全国都市緑化祭を実施します。)
- 会場

メイン会場	花の拠点(恵庭市) ※道の駅「花ロードえにわ」の後背地
協賛会場(想定) ※いずれも未協議	えこりん村、サッポロビール北海道工場、ふるさと公園(恵庭市) ノーザンホースパーク、イコロの森(苫小牧市) いわみざわ公園(岩見沢市) ゆにガーデン(夕張郡由仁町) 国営滝野すずらん丘陵公園、真駒内公園(札幌市南区) 民族共生象徴空間ウポポイ(白老郡白老町) ※平成30年北海道胆振東部地震被災地(厚真町、むかわ町、安平町)の会場も想定します。
スポットイベント会場	今後協議予定
- 入場料等 会場への入場料等は、無料を基本とします。(一部既存有料施設のほか、有料イベントを検討します)
- 目標入場者数 事業内容、交通対策等を勘案して基本計画において設定します。
- 愛称、シンボルマーク
 基本計画において、開催テーマを象徴し、北海道・恵庭らしく、広く道民・市民に親しまれるものを設定します。

5 会場構成

■ 恵庭、北広島、千歳、札幌の周辺のガーデン施設と花と緑の活動拠点を連携

- ・えこりん村、サッポロビール工場、ノーザンホースパーク、イコロの森、ゆにガーデン、ウポポイなど、周辺の都市公園、庭園、景勝地等を結びネットワーク型の会場構成を検討します。
- ・各会場では既存イベントを中心に回遊を促すプログラム等を展開。一体的プロモーションにより道内外、国外からの誘客促進につなげる



近 中 広域連携
 メイン+まちなか → サブ → ネットワーク



■ フェア開催に合わせた「ガーデンツーリズム登録制度」への計画登録の申請の検討
 「ガーデンツーリズム登録制度」とは国土交通省が地域の活性化と庭園文化の普及を図るため、各地域の複数の庭園の連携により、魅力的な体験や交流を創出する取組をガーデンツーリズムとして、その計画を登録し、支援する制度のことをいいます。

6 「メイン+まちなか」会場計画

■ メイン会場を中心に恵庭市内の花のまちづくりの魅力を周遊できる会場構成

- ・ 恵庭市内のオープンガーデン、市民活動場所等を地域が持つ魅力的な資源を有効に活用し、最寄り駅からメイン会場に向かう手段として徒歩や自転車等、多様な提案をしながら「恵庭の花と緑の魅力」を満喫いただく。
- ・ メイン会場では、テーマ性のある質の高いガーデンを散策、野外ステージのイベントに参加し、センターハウスで花文化や観光情報に触れ、道の駅・農産物直売所で恵庭の食を味わっていただく。
- ・ 「恵庭だけ」「あなただけ」「日常を上質に」をキーワードとして、恵庭を楽しめる会場構成にする。

区分	概要
	メイン会場： フェアの理念や方針を表現し、北海道・恵庭の花と緑を発信する拠点
まちなかエリア 恵み野	<p>《会場コンセプト》</p> <p>『駅からのアプローチもガーデンだ〈恵庭 Machinaka Garden〉』</p> <p>《展開イメージ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花で飾られた JR 恵み野駅から、恵み野商店街等を散策しながらメイン会場に徒歩で向かうことを想定。ルート上には商店街のガーデンテーブル、ポケットパークや商店・個人宅のオープンガーデンがあり、市民による花のまちづくりを実感しながらメイン会場に向かうアクセス路となる。
メイン会場 花の拠点	<p>《会場コンセプト》</p> <p>『恵庭のまちづくりと観光の base になる〈恵庭 Base Garden〉』</p> <p>《展開イメージ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲートエリア：道の駅「花ロードえにわ」と農産物直売所「かのな」がガーデンへ導くゲートエリアを構成する。キッチンガーデン・屋台・テーブルやいすが並ぶ、にぎわいの場とする。 ・ ガーデンエリア：ゲートエリアを抜けた先に、ガーデンエリアの緑の芝生が広がる。周囲にテーマ性のある質の高いガーデンを配した中心的な場所で、野外ステージではイベントが行われる。 ・ センターハウス：市民活動の拠点施設で、花文化や観光情報を発信する。 ・ 駐車場（新設）：ガーデンエリアの東側に隣接する。テントを設置し、式典会場として利用する。
協賛会場	<p>恵庭と周辺都市のガーデン施設・花と緑の活動拠点を連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ えこりん村、サッポロビール北海道工場（恵庭市）、ふるさと公園（恵庭市）、ノーザンホースパーク、イコロの森（苫小牧市）、いわみざわ公園（岩見沢市）、ゆにガーデン（由仁町）、国営滝野すずらん丘陵公園、真駒内公園（札幌市）、民族共生象徴空間ウポポイ（白老町）や、平成 30 年北海道胆振東部地震被災地（厚真町・むかわ町・安平町）の会場も想定

まちなかエリアイメージ



花で飾られた玄関口

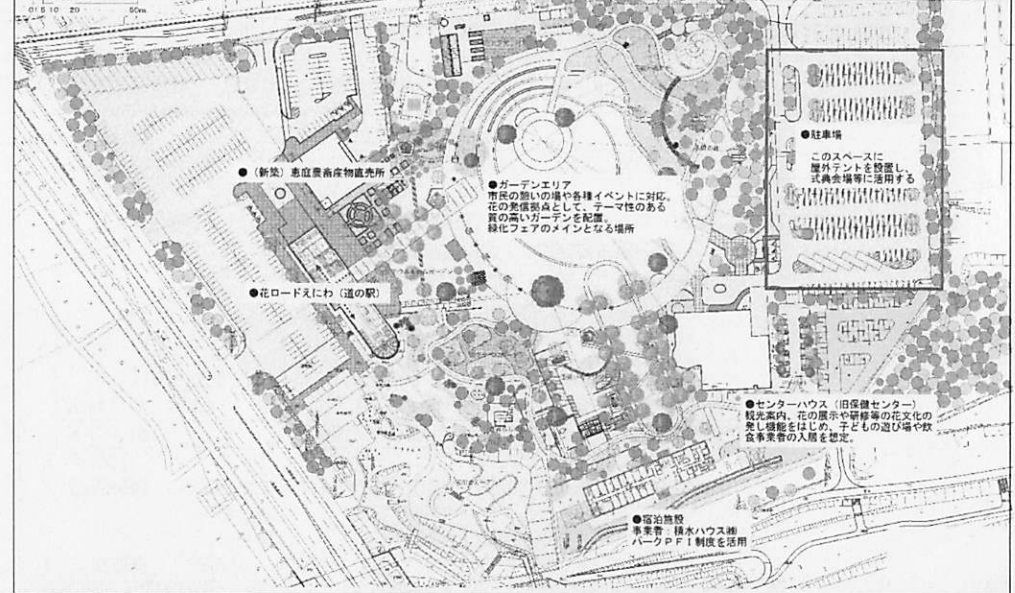


ガーデンテーブルの並ぶ商店街







商店や個人宅のオープンガーデン

会場イメージ



7 事業計画

<p>(1) 出展・展示計画</p>	<p>メイン会場とまちなか会場とが連携しながら、まち全体で花と緑の魅力で来場者をおもてなしする出展、展示を市民との協働、造園・花卉関係業者、関係企業等と連携し策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● メイン会場では、北海道のガーデンの自然やガーデニングの魅力を多彩な演出と技術で提案するとともに、周辺のガーデン巡りや、まちなかへの散策に出掛けたいくなるような工夫を施します。 ● まちなか会場では、恵庭市の花と緑を活かした地域活性化につながるまちづくり活動の成果を披露するとともに、花緑を用いて暮らしの質を高める提案等の場を、主役である市民、団体の活動を中心に演出します。 
<p>(2) 植物調達計画</p>	<p>市内及び周辺地域、道内の生産状況や園芸産業の振興、今後のまちづくりでの活用の観点から植物調達計画を策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 植物調達は、会場の景観や雰囲気、伝えるテーマやイメージ、コンテンツの内容、目的等、会場計画に合わせて実施します。 ● 植物の生産調達体制、生産状況の調整、会場への搬入・施工・維持管理を円滑に推進するための総合的な監理体制を整えます。
<p>(3) 行催事計画</p>	<p>「花のまちえにわ」市民が育むガーデン文化」の既存の行催事を基本として、フェアを契機とした発信と周知を図り、地域のにぎわいを創出する行催事計画を策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オープンガーデンの魅力やガーデンづくりの楽しさ知ってもらうためのグ講習会、ガーデン巡りツアーを企画、開催します。また、市内の既存のイベント等とタイアップし地域振興に向けた行催事を行います。 ● 市民、企業、団体、及び、連携する自治体等とのタイアップにより、各団体の情報発信や魅力のアピールをフェアの会場をはじめとした地域全体のにぎわいを創出します。 
<p>(4) 会場運営計画</p>	<p>フェアの基本方針に掲げる「花のまちづくり」「観光振興」等を踏まえ、公園管理運営主体との連携、市民や団体との協働、民間活力の活用等を基本とした計画を策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 庭園などの展示、管理には、造園業者、学校等の出展参加を図るため、市内の造園組合、花苗生産組合などの連携を図るほか、毎年開催している「花とくらし展」に協力いただいている学校等と連携した取り組みを進めます。 ● 会場運営では市民の参画、協働を積極的に図り、来場者との交流やおもてなしの取り組みを目指します。 

<p>(5) 広報宣伝計画</p>	<p>道内や北海道を訪れる国内外の観光客を対象に、北海道、恵庭の地域資源、観光資源を発信する事業や各種キャンペーン等と連携し、観光業界、各種交通機関との協力を得ながら効率的かつ効果的な広報宣伝、観客誘致を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存イベントの開催主体や北海道フェア連絡協議会の自治体の広報ソース・ツールを積極的に活用するとともに、民間企業、公園やガーデン管理者と連携・協力し、広報宣伝計画を策定します。 ● 来場者や関心を持ってもらった人々のSNS等の発信力を期待し、インスタ映えるスポットを用意する等の方法を検討します。
<p>(6) 交通輸送計画</p>	<p>円滑な来場者の輸送と会場周辺の生活環境に配慮した交通輸送を前提に、公共交通機関利用の推奨、来場者の安全性や快適性の確保、周辺環境への配慮を重視した計画を策定します。</p>
<p>(7) 協働・参画計画</p>	<p>出展・展示、行催事、運営管理等の計画において、市民との協働・参画や多様な主体の連携を基本として、体制づくりや実施方法に反映します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フェアが一過性に終わることなく、地域に根ざす活動となるような仕組みを、市民とともに作り上げていくプロセスを検討します。 ● 次世代を担う子供達の参加しやすいプログラムや市民交流の活性化など、将来のまちづくり、人づくりにつながる仕掛けづくりを検討します。 

8 スケジュール

【スケジュール】

R01 (2019)		R02 (2020)		R03 (2021)		R04 (2022)	
基本構想		基本計画		実施計画等		北海道フェア開催	
★基本構想検討委員会 ☆連絡協議会		★大臣同意		★実行委員会設立 北海道フェア実行委員会			
花の拠点整備室		北海道フェア準備室		北海道フェア推進室			